

ITU-R SG4 副議長 (RA-15 選出(再任)) 河合 宣行氏 (KDDI) に聞く

【読者のための豆知識】

SG4 (第4研究委員会)の活動内容：
固定衛星、移動衛星、放送衛星及び無線
測位業務の衛星業務全般

専門領域: 衛星通信 (移動体衛星通信、VSAT システム等の設計開発、周波数共用等)

略歴: 1985年 北海道大学工学部 電子工学科卒業
1985年 国際電信電話株式会社(現 KDDI 株式会社) 入社
1993年 インマルサット本部(ロンドン)に出向
2002年 国際ネットワーク部 衛星通信グループリーダー
2011年 山口衛星通信センター長
2012年 ITU-R SG4 副議長就任(現在に至る)
2014年より グローバルネットワークオペレーションセンター(GNOC)副センター長



— RA-15 から1年余りが経ちましたが、重責を担われていることについて現在の率直なお気持ちは？

(河合) 前研究会期(平成24年~27年)に続き、ITU-R SG4 副議長に再任させて頂きました。前会期では自身が不慣れな点が多いと感じましたが、平成27年にWP4Cの議長にも就任したため、今会期は、SGのマネジメントに、よりプロアクティブに貢献したいと思います。

— ご専門領域とご経歴、ITU(SG)との係わりなど、その他の標準化機関での活動などを教えてください。

(河合) 2000年頃から、ITU-R SG4、WP4A、WP4Bの活動に関わり、衛星ネットワークにおけるTCP/IPプロトコル特性改善に係る勧告取り纏めをはじめとし、IP利用を含む新たな衛星通信の利用の促進する新課題の導入、勧告・報告の作成に携わってきました。また、災害時における衛星利用事例を勧告・報告に盛り込み、災害時の衛星利用に関するシステム設計や利用技術の共有等を図りました。また、WRC-15では、議題1.9.2(7/8GHzの海事衛星通信業務への新規分配)のDG議長を務めました。

— これからRA-19/WRC-19に向けて副議長としてリーダーシップを発揮されていくこととなりますが、今研究会期におけるご担当の研究委員会の最重要テーマ・課題はどのような事でしょうか？

(河合) モバイル通信や衛星通信においての高度化、広帯域が進展し、スペクトラム需要が高まっています。モバイル通信では5Gに向けた周波数特定が喫緊の課題であり、衛星通信では、移動体プラットフォーム向け地球局、周回衛星等による周波数の利用拡大が検討されています。このような流れの中で、さまざまな周波数帯における、衛星通信と他業務の共用検討が益々重要となることは疑いなく、今会期の最重要課題と考えています。

— 副議長としての目標達成のためにどのような点に力点を置いて活動される予定ですか？

(河合) WRC-19に向けた衛星関連の議題に関する研究の完遂を目標としています。特に自身が議長を務めるWP4CがCPMテキスト作成責任を負っている議題9.1.1(2GHz帯IMT)、議題1.8(GMDSSの近代化及び新たな衛星プロバイダ)に注力したいと考えています。また、モバイル、衛星の共用が焦点となる、議題1.5(28GHz帯の移動地球局の帯域拡大)、議題1.13(IMT2020の周波数特定)も我が国にとっても重要なテーマです。これらについて、技術面、制度面において充実した検討が進むよう、注力したいと思っています。

— 副議長としての難しさや壁(障壁)、そうしたことへの対処方法はどうかお考えですか？

(河合) やはり、異なる国や地域の間で意見が対立し、平行線を辿る議事の調整が最も難しいと感じます。そうした状況への万能な解決策はありませんが、議論を尽くすための場づくり、客観的・公平な視点での仲裁、なるべく早い段階から着地点を意識した議事進行等を、誠意をもって進めるしかないと思います。また、実務を担うドラフティンググループの議長やITU事務局メンバーとの信頼関係の醸成も欠かせない要素だと考えます。

— わが国の政府関係やICT産業界からの理解や協力が大変重要で必要なものだと思いますが、これについての期待をお聞かせください。

(河合) 総務省や国内関係機関の方々からは、いつもサポートを頂き、感謝しております。また、事業者やベンダーの方々も周波数有効利用に関するさまざまな課題を検討する場にも参加する機会を頂き、ITU-Rの活動をより有機的なものとするに役立っています。

— 他国の政府や事業者などとの協調・協力が不可欠だと思いますが、副議長としてこうした加盟国(事業体)に対して期待することはどのようなことがありますか。

(河合) ITU-R においては、国・地域間の利害が対立することも多いのですが、益々グローバル化する IT 社会において、個々の地域や業務に留まらず、長期的な観点から、より建設的、調和的な議論ができることを望んでおります。

— 個人的な信条とか、プライベートな時間でのご趣味などをお聞かせください。

(河合) ここ数年、仕事が多忙だったこともあり、あまり趣味の時間がとれませんが、学生時代にバンド活動をしていたこともあり、ギターを弾きながら歌うのが好きです。昨年、職場の同僚(部下)の結婚パーティーで弾き語りを披露する機会があり、久々に燃えました。

— このインタビューにお時間を割いていただき有難うございました。これからの一層のご活躍をお祈りしております。読者の方へのメッセージがあればお聞かせください。

(河合) ITU-R は、周波数や衛星軌道を巡って、さまざまなルールや手続きがあって、難解な(とっつきにくい)印象を持たれる方も多いと思いますが、有限な資源である周波数や衛星軌道の利用という、大変重要な課題を扱っています。また、活動を通じて、各国に多くのかけがえのない友人を作ることができます。是非多くの方々(特に若手の皆さん)にこの活動に関心を持って頂ければ、有難いと思います。

数年前、当社の山口衛星通信センターに勤務していた際、地元のロータリークラブ(*)に所属していましたが、ITU-R の会合の合間に、ジュネーブのロータリークラブの会合に訪問し、歓待を受けました。



(*) 職業を通じた社会への奉仕を推進する、国際的奉仕クラブ団体。2014.10 現在、201カ国と地域に 34,558 クラブ、会員総数は 1,220,115 人である。

文責:(一財)日本 ITU 協会(M)